

2015 年度 研究旅行奨励制度 報告書

アメリカにおける「ZEN」の探求
曹洞宗 サンフランシスコ禅センターとバークレー禅センターを中心に

16AR145 佐々木 伽歩

目次

●研究目的

●研究の対象と手法

●調査日程

●研究成果

はじめに

第1章 日本での調査

- 1 アンケート調査
- 2 禅の歴史
- 3 現在の禅 福岡市安国寺への訪問
 - (1) 座禅の準備
 - (2) 座禅のやり方

第2章 なぜアメリカでZENは受け入れられたのか 全米日系博物館の資料を中心に

- 1 初期の日系人と日本主要教団
- 2 新宗教の進出
- 3 第二次世界大戦時の日系人
- 4 戦後の日系人とアメリカ化(バークレーの写真挿入)
- 5 現在の日系人 アメリカ人に受け入れられた仏教

第3章 現在の禅センター

- 1 サンフランシスコ禅センター
 - (1) 歴史
 - (2) 訪問の記録
 - (3) インタビュー
- 2 バークレー禅センター

終わりに

参考文献・URL

●研究目的

現在多くの人が利用している iPhone や iPad には日本から伝わった禅の精神が反映されているという。Apple 創設者のスティーブ・ジョブズは、大学中退後に行ったインドへの旅をきっかけに仏教に目覚め、アメリカにある禅センターに頻繁に通っていた。Apple の基本理念である「フォーカスとシンプルさ」は、「シンプルであることは複雑であることよりも難しい」という禅の教えそのものである。

禅とは座禅によって心身を統一し、バランスを極めたうえで肉体的精神的調和はかる。他人の教えや経典に頼るのではなく、自らのうちにある仏性を再発見することを目的としている。

鎌倉時代に中国から日本に伝わった禅仏教は、鈴木大拙らによって 1960 年代にアメリカに伝えられた。

日本では自分の意思とは関係なく、家柄や慣習に従って自分を仏教徒として認識している人が多い。または、自分がどの宗教も信仰していないと無宗教を語る人も少なくない。それに対し、アメリカでは個人が仏教の魅力に惹きつけられ、自らの意思で多くの人が修行に励んでいる。時代を経て、なぜそのような違いが生まれていったのだろうか。

今回の調査では、現在アメリカの各地に禅センターが設立されるなどして、ブームとなっている禅仏教に焦点を当てる。国境を越えなぜアメリカの地では禅が必要とされ、また禅はアメリカの人々に対してどのように機能しているのかという問いについて明らかにしたい。

●研究の対象と手法

アメリカへの調査の前に、福岡市にある曹洞宗安国寺で座禅会に参加し、そこで修行されている方にお話を伺う。それによって、アメリカでの調査の際に比較をすることができる。

本研究では、特に二つの禅センターを中心に行った。アメリカで初の禅センターとして創立されたサンフランシスコ禅センターと、サンフランシスコ禅センターと同じく曹洞宗であり、鈴木大拙によって開かれたバークレー禅センターである。この二つの禅センターで、朝と夕方の座禅に参加し、禅センターに通う幾人かの人々と交流を図る。現地でしか見ることができない禅センターに通う人々の行動や服装、建物などの視覚的なものから日本の仏教との比較を行う。アメリカ仏教の実態を考察する。また、訪問後、メールでセンターにいる人々にアンケートを行う。

アメリカにおける禅の背景を調査するために、全米日系人博物館を訪問する。日系移民についての歴史に関する貴重な資料に触れることができる。

カリフォルニア州にあるバークレーという都市は、ヒッピー文化が発祥した地である。また、バークレー美術館には多くの仏教美術品も展示してあるため、調査の一つとして加えた。ヒッピー文化の中心であるヘイトアシュベリーにも足を延ばした。

調査日程

	滞在地	行動・調査
2月1日(月)	福岡→東京→サンフランシスコ	移動
2月2日(火)	サンフランシスコ	サンフランシスコ禅センター
2月3日(水)	サンフランシスコ	サンフランシスコ禅センター
2月4日(木)	サンフランシスコ	ヘイトアシュベリー
2月5日(金)	バークレー	バークレー禅センター
2月6日(土)	バークレー	バークレー禅センター、 バークレー美術館
2月7日(日)	サンフランシスコ→ロサンゼルス	移動
2月8日(月)	ロサンゼルス	全米日系人博物館
2月9日(火)	ロサンゼルス→東京	移動
2月10日(水)	東京→福岡	帰国

●研究成果

はじめに

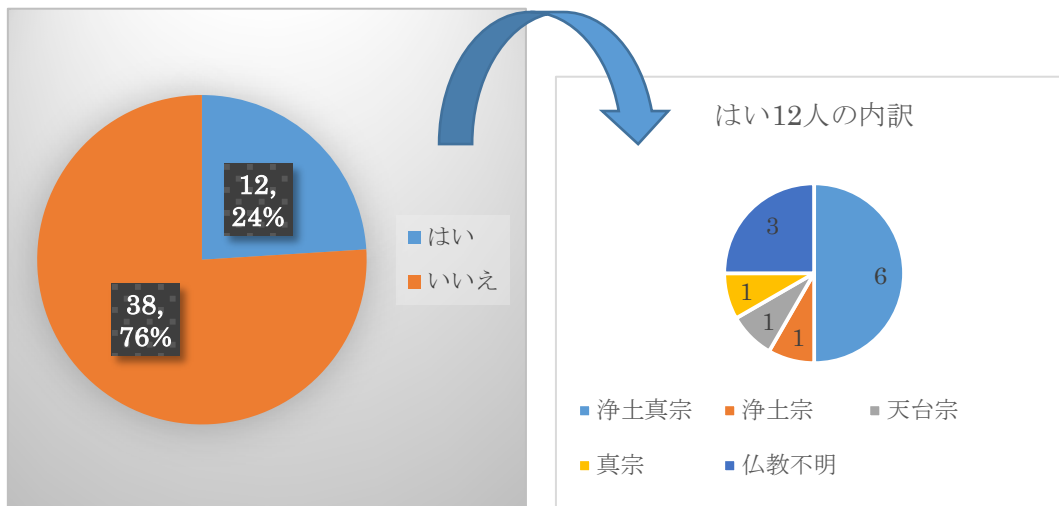
本研究では、日本とアメリカにおける禅の違いについて、二つの禅センターを訪問し、体験、ヒアリングすることによって得た調査の報告を行う。成果報告は、3章構成とした。第1章では、日本での調査をもとに現代の日本人の宗教観、今日の日本の禅について述べる。第2章では、どのようにしてアメリカで禅は広まっていったのかについて考察する。アメリカの地で仏教が広まったのには、日系人の存在が大きかった。全米日系人博物館で得た情報をもとに、日系アメリカ人の歩みについて論じていく。第3章では、研究の中心であるサンフランシスコ禅センターとバークレー禅センターを訪問し、得た情報をもとに、現在のアメリカの禅についての実態に迫る。

第1章 日本での調査

1 アンケート調査

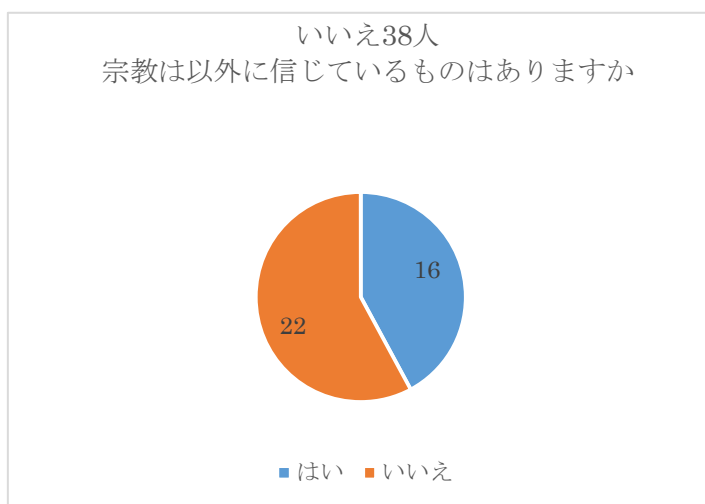
学生 50 人（男性 25 人・女性 25 人）に宗教観に関するアンケート調査を行った。

(1) 宗教を信仰していますか



(信仰していると言える理由)

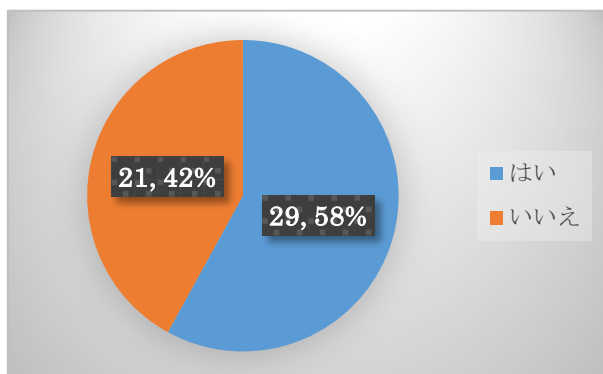
家に仏壇があるから、
仏壇の前で先祖に手を合わせたくなる精神、
冠婚葬祭お葬式のやり方がそうだから
親、家族がそうだから



(はい 16 人 信じているもの)

自分 2 人、教育 2 人、友達 2 人、努力練習 2 人、芸能人 1 人、進化論 1 人、自然 1 人、
家族 1 人、占い 1 人 嘘をつかない人 1 人

(2)宗教は必要だと思いますか



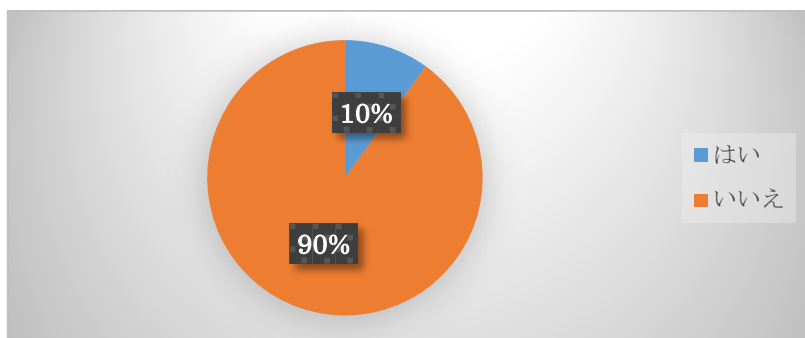
(はい 29人 理由)

心の拠り所・支え 11人、必要な人もいるから 7人、生きるための指標 3人、信じることでがんばれるから、行事のしきたりとして必要、安心安寧を供給するビジネス、特定の絶対的な存在として必要、信じる力は必要、秩序を保つものとしての役割、芯の通った行動ができる、団結のきっかけ、文化発達のきっかけ、

(いいえ 17人 理由)

紛争・戦争など危険な方向に進む原因になるから 8人、今まで生きてきた中で必要性を感じない 3人、すぎる必要はない 2人、宗教ではなく自分を強く持つべき、宗教にしばられたくない

(3)坐禅を組んだことがありますか



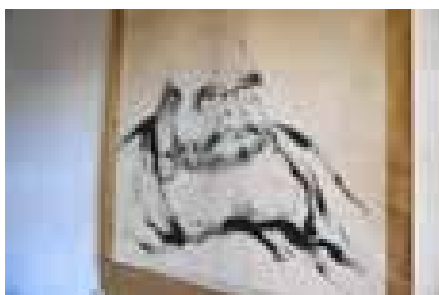
学生の多くが「無宗教である」という認識を持っていた。信仰している宗教があるという人も家柄や慣習にのっとってそのように認識している人が多いようである。一方で、宗教が必要であると答えた人は、半数近くに上った。無宗教と語る人も、自分には必要ではないが、誰かしらにとっては必要であると考える人が多いという結果になった。

また、坐禅をしたことがある学生は全体の 10%であった。坐禅に対して「叩かれる」「厳しい」といったマイナスのイメージを持つ人が多いようである。では、禅とはいったい何であろうか。禅の歴史とその実態について考察する。

2 禅の歴史

西暦 1200 年に誕生した道元禅師は、仏教の原点は座禅にあると主張した。仏教は、インドで生まれたお釈迦様(釈尊)が修行の末に開いた宗教である。お釈迦様が悟りを開いて、仏陀(目覚めた人)となったのは座禅があったからであり、お釈迦様の教えは、座禅を土台として説き示されているという。そのため、「ただひたすら座禅をすること(只管打坐)」を主唱したのである。

釈尊の第 28 代目の弟子、達磨大師は、6 世紀にインドから中国にわたり禅宗を開いた。



(写真 1) 達磨大師 サンフランシスコ禅センターにて

撮影 佐々木 伽歩

大師の教えは、受け継がれ、第 6 代目の大鑑慧能禅師によって、中国全土に広まった。時代を経て、さらに禅は日常生活に即した綿密な生き方として完成された。道元禅師は、この二人の禅師から、教えを受け、日本曹洞宗を確立した。¹

曹洞宗は、座禅を基本とした仏教である。釈尊から受け継がれてきた座禅の中にある仏の心を求めて、ただひたすら座禅をする。座禅をする心がそのまま仏であることを体得することが座禅の修行であり、信仰の基本である。座禅は「身体」「呼吸」「心」の三つの要素があって成り立つ。

3 現在の禅 福岡市安国寺への訪問

福岡市中央区に位置する安国寺に訪問した。慶長 5 年(1600 年)、豊前中津(大分県中津市)から領地替えにより福岡に入部した黒田長政は、天翁全補和尚のために中津の安国寺を移した。寛永 12 年(1635 年)に火災で焼失したが、福岡藩二代藩主黒田忠之の援助により再興された。²



(写真 2) 安国寺

撮影 佐々木 伽歩

日本に 27 カ所ある曹洞宗のお坊さんになるための修行ができるお寺の一つで、現在 8 人の修行僧の方が、修行に励んでいる。毎週木曜日には坐禅会を開催しており、500 円で一般の方も参加できる。坐禅会に参加し、僧侶の方に話を伺った。

毎週の坐禅会の参加者は、10 人から 20 人ほどである。安国寺は、特にホームページやブログなどで発信していないため、ほとんどの人が、お寺の前の坐禅会の案内を見て参加されることが多いという。私が参加した 2 回の座禅会で、初めて参加される方 3 名に質問してみたところ、どの方も通りかかりに坐禅会の案内を見かけ、気になって参加したそうである。約 6 割の人々が 2 回以上継続して、坐禅会に通っているという。

安国寺が坐禅会を行う目的は、地域の社会貢献のためだそうだ。また坐禅に関して、誤った認識を払拭し、正しい坐禅について理解してもらう場でもある。坐禅をすることにより、精神が安定し、心が落ち着きを得ることができる。姿勢がよくなり、胃腸の調子が良くなるといった効果も期待される。「後光がさす」ということがあるが、坐禅を続けていくと、内面の美しさが磨かれるとも言われている。

しかし、これらは、坐禅をすることによって、付随してくるものであり、このような目に見える目的や効果を期待して、座るのは坐禅ではない。

「ただ座ること。座ること自体が尊いことで、座っている姿が仏である。無の境地と言われるが、そのようなことを考えるうちは、まだ修行が足りていないということ。」

と僧侶の方はおっしゃっていた。坐禅は、修行の一つである。坐禅だけではなく、朝から晩まで、1 日の食事や掃除、入浴、そして寝ている間も修行であり、全てがリンクしているのだという。

次から実際に座禅はどのように行うのかということについて、寺院で習った手順をもとに述べる。『よくわかる仏事の本 曹洞宗』で補足した。

(1) 坐禅の準備

坐禅をするときは、なるべく静かで落ち着くことができ、照明も明るすぎず、暗すぎもしない、適温の部屋でやるのが好ましい。

服装はなるべくゆったりしたものを選ぶ。いくつかの禅堂では、過度な露出、スカート、腕時計、アクセサリーの着用は、禁止されている。靴下を脱いで素足で座禅を組む。

体調が悪い時に座禅をするのは避ける。空腹時や満腹時に行うのも好ましくない。腹八分目にする。

座禅を行うときに姿勢を正し、高さを固定するために「座蒲(ざふ)」というクッションのようなものを用意する。



(写真 3)座蒲 サンフランシスコ禅センターにて
撮影 佐々木 伽歩

坐蒲がない場合は、普通の座布団を二つ折りにして代用してもよい。

(2)坐禅のやり方(禅堂での場合)

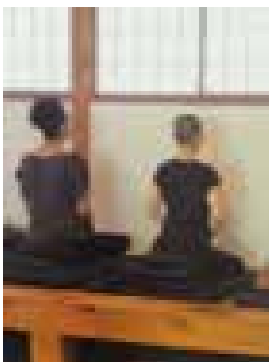
①禅堂への入り方、座るまで

左手は親指を内側に握るようにして、それを右手で包み込む叉手（しゃしゅ）という形にする。胸は張り、叉手はみぞおちから握りこぶし一個分離す。禅堂に入る前に一礼する。そして坐禅をする場所についたら、座位に向かって合掌し、静かに頭を下げる。次に右回りをして後ろ向きになったら同じように合掌する。そして座蒲の右側に回って座る。

②座り方

座り方には、右足を左もの上に深くのせ次に左足を右のもの上へのせる。この形が最も安定し、好ましい形である。しかし、身体がかたかったり、足が痛かったりする場合は、一方の足だけのせる組み方でもよい。

座蒲は背骨のちょうど下にくる位置に敷き、お尻を後ろに突き出すようにして背骨を伸ばす。この時に耳と肩、鼻と臍が一直線(垂直)になるようにし、前後左右に傾かないようにする。



(写真 4) 坐禅の様子

出典 サンフランシスコ禅センターパンフレット

③左右揺振

両方の手のひらを上に向けて、膝の上に置き、時計の振り子のように上体をゆっくり動かす。始めは大きく、徐々に小さくしていき、振り子が自然にとまるような感じで上体をピタリと止める。

④手の組み方

法界定印といわれる手の形を作る。右の手のひらを上向きにして組んだ足の上に置き、その上に左の手のひらを同じように上向きにして置き、親指と親指が軽くふれる程度にくっつけ、きれいな楕円形をつくる。腕は自然と垂らして、組み合わせた手がお腹や臍のあたりにくるようにする。脇の下は腕と胸の間に離して楽な形にする。



(写真 5) 法界定印

出典 <http://soto-hse.jp/page048.html>

⑤目線、口

目は半分開けた状態で、視線を 1 メートルくらい前に落とす。あごはグッと引きつけ、口は軽く閉じる。

⑥呼吸(調息)

最初は、体の中でゆっくりと吐き出すようにする。そうすると、自然に鼻から空気が入ってくるので、胸から下腹に吸い込むようにする。吐く息は長く、吸う息は短くすることを意識し、口を閉じ鼻で息をする腹式呼吸が座禅の呼吸法である。

⑦精神の集中

体調不良や、空腹時は座禅を中止する。また、落ち着きがないようなときは、心を眉間や鼻先に集中し、落ち着きを取り戻すようにする。じっと座っていると、様々な思いが頭の中をめぐることがあるが、その時は思いにとらわれたり、追いかけてりしないようにする。

⑧座禅終了

座禅を終えるときは、突然立ってはいけない。静かに合掌し、左右揺振して立ち上がる。座る前と同様に、両隣、前後ろに合掌して終える。

40 分ほどの坐禅を終えた後、経典を読む。経典は、坐禅に関する基本的なことや教えが書いてある。初心の心を忘れないためにも、経典を読むことは大切である。「道を究める」という言葉があるが、古くから日本に伝わる柔道や剣道、茶道、華道などは、何度も同じことを反復することによって最高のものを会得しようとした。

「坐禅もまた、経典を読むことが昔から伝わる意識や形式を守ることにつながり、反復することによって、その道を究めることができる。」と坐禅会后、そのような話があった。

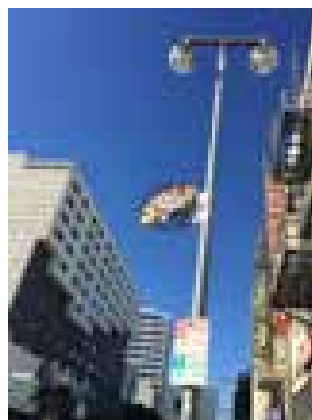
前述のアンケート結果にもあったように、多くの学生は無宗教だと回答していた。坐禅

自体は、宗教ではないため、無宗教でも、曹洞宗ではない他の宗教を信仰していても、問題は無い。大切なのは、坐禅を継続することである。このような要素を坐禅がもっていたことから、地域や宗教に関係なく、坐禅はヨーロッパやアメリカなど世界に伝わった。次章では、どのようにアメリカの地で禅は広まっていったのかについて述べる。

第2章 なぜアメリカでZENは受け入れられたのか—全米日系博物館の資料を中心に— ロサンゼルス日本人町は、アメリカ最大の規模である。



(写真6) 至る所でみられるカタカナ
撮影 佐々木 伽歩



(写真7) 扇と招き猫
撮影 佐々木 伽歩

そこに建設された全米日系人博物館は、1985年に日系アメリカ人の歴史と文化を多民族国家アメリカの歴史の一部として、次世代に伝えていく役割を担っている。



(写真8)全米日系人博物館 撮影 佐々木 伽歩

私が訪れたその日も、何グループかが英語のガイドについて博物館を見学していた。現在、利用者4分の1が日本人であり、常設展は無料の日本語で説明する iPod Touch の貸し出しも行っている。入手した全米日系人博物館出版の『日系アメリカ人の歴史—アメリカに渡った日系移民の歩み』の資料と、そこで見た展示品など情報から、日系アメリカ人の歴史について述べていく。

1 初期の日系人と日本主要教団

日本人が初めてアメリカの地を踏んだのは、1841年のことであった。それは船の漂流による偶発的な出来事がきっかけであったが、1868年には、153人の日本人が砂糖キビ農場の労働者として、ハワイに渡った。翌年、1869年に会津藩の一団が本土に上陸した。彼らは、悲劇の会津戦争後、アメリカという新天地に夢を抱いた落人たちであった。移民たちの多くは、富を得るために渡米し、ある程度の稼ぎを得たら日本へ帰るつもりであった。それまでのアメリカは、主に中国から多くの移民が労働力の担い手であったが、制限されることになり、アメリカにとっても日本人は、中国人の代用として求められたのである。

日本政府は、ハワイ王朝と1881年に日本ハワイ渡航条約を結び、特に友好的な関係であった。それにより、1885年以降26船約3万人がハワイに渡った。1880年代、日本は不況のどん底であった。商業の不振、失業、重税、凶作など多くの問題を抱えていた。明治政府は農村の不況対策としての移民募集を積極的に行ったのである。

しかしながら、1893年のハワイ革命をきっかけに、事態は急変した。この革命には、アメリカが関与しており、ハワイはアメリカの属領になってしまった。これにより、アメリカの移民法が適用されるようになり、日本からの移民は制限されるようになった。

この動乱の中、政府に代わって移民事業を進める会社が出てきた。彼らを介して渡米した移民は「私約移民」と呼ばれる。この時期は、日系人にとって暗黒時代であった。劣悪な環境で、生活は乱れ、稼いだお金もばくちや女に使ってしまった。

この事態に危機感を募らせた日本政府は、1900年に移民会社の斡旋による渡米を禁止した。そして、「自由移民」の時代が来たのである。アメリカ本土では、ハワイより数年遅れて移民の数が次第に増えていった。1900年には、移民の累積数は、2万5千人ないし、4万人に上るとされている。

しかし、日系人が自由にアメリカに入国できる期間はわずかであった。短期間に増加した日系人の働きぶりに、仕事を奪われるのではないかという不安が募り、アメリカ人は、中国人を排斥した時と同様に動き始めた。1907年　ハワイからアメリカ本土へ移住するのを禁止し、翌年には日本とアメリカの間で日米紳士協定が結ばれた。在米日本人の家族、再渡航者、結婚による渡航者、旅行者などを除く新移民の渡航を、日本側が自発的に禁止するという内容であった。この時代の流れから、「写真花嫁」(写真の交換のみで結婚を決め、その花嫁を日本から呼び寄せるもの)が流行した。



(写真 9)写真花嫁 鈴木まさ 1917年 出典 全米日系人博物

館『日系アメリカ人の歴史 アメリカに渡った日系移民の歩み』2001年

1900年代彼らは異人種間での結婚が認められていなかった。また、日本に帰って、結婚相手を見つけるためには費用がかかり過ぎた。そのため、「写真花嫁」と呼ばれるシステムが生まれたのである。1900年代後半から1924年の排日移民法案⁴が制定されるまで、多くの「写真花嫁」が海を渡り、家庭を持つことができる男性が増えた。それにより、日系人社会は安定し、日系コミュニティの発展が促進された。さまざまなコミュニティが生まれていったが、その中で寺院や神社などは重要な役割を果たした。

日系移民の多くは若者であったが、病死や事故死によって葬儀の必要性が生まれた。また、日々の生活の中に、宗教的儀礼や習俗が欠けることへの寂しさを募らせていた。彼らのところに一番早くに布教活動を行ったのは、キリスト教であった。当時最も大きい日系人コミュニティはハワイにあり、サンフランシスコから日本人の布教者がやって来た。それに10年ほど遅れて、仏教の布教活動が行われた。⁵

1893年には、浄土真宗本願寺派が、海外の移住者、出稼ぎ労働者のために、アメリカへの進出を決定した。この決定は、もちろん日系移民の心の安定のためという大義はあったが、彼らがキリスト教に感化されるのを恐れていたという背景があったのも事実である。それから浄土真宗以外の日本の主要宗派も相ついで、ハワイに布教し、次々と寺院がつくられた。

西海岸では、1898年の浄土真宗がサンフランシスコに進出したことを始まりとして、各地に仏教会を設立した。西海岸は日系人が多かったため、それと比例して多くの仏教会が今日まで残っている。ハワイ、そして本土において、最も優勢なのは、浄土真宗の本願寺派である。移民のほとんどは、西日本出身であった。山口、広島、福岡をはじめとする西日本の地域では、浄土真宗本願寺派を信仰している者が多かった。日系人の中でも出身地によって所属意識があり、出身地と宗派は強く結びついていた。

初期の仏教集団は、日本国内と同じく、葬儀、年忌法要など、死者儀礼、先祖祭祀を中心としている。それに加えて、特徴的なのが、日系人のコミュニティとしての役割である。自身の宗教として根強く信仰している場合もあれば、そういったコミュニティ感覚で、所

属していたというようなどころもある。同じ出身地のものが同じ仏教会に所属する傾向が続く中で、重複所属も普通だった。それは、日系人社会特有の付き合いの多層性を反映している。仏教教団側と日系人、双方のニーズを満たした。

2 新宗教の進出

移民社会が一定の定着を見せたが、彼らの生活基盤であるサトウキビのプランテーションが衰退し、日系人は新たな仕事を求めて、都市部に進出した。そのため、新たなコミュニティが再編成される際に新教団が入り込むチャンスが生まれた。

天理教、金光教などの古手の新宗教や、天台宗、華嚴宗東大寺のような密教的色彩の濃い教団はこの好機を見逃さなかった。それらの教団は、海外布教に強い関心を持つことによって、当時浸透しつつあったいくつかの宗派に割り込むことが可能になった。

また、これらの新たな教団群が浸透した背景には、移民側の事情もあった。移民の中にこれらの新宗教を渡米前に信仰していた者たちが少なからずおり、自分たちの教団が渡米することを待ち望んでいた。初期のころに伝わった主要宗派は、真言宗を除いて、加持祈祷的な側面が弱い傾向にある。これらの教会は、コミュニティセンターとしての役割は果たしたが、一方で宗教者に病気を治すなどの機能を期待し、祈祷的機能を持つ宗派を欲していた移民にとっては物足りないものだった。

日本主要教団も、続いて広まった新宗教団も、移民社会を布教の基盤としていた。どちらも、日本から布教者が赴くか、移民の中にいた信者が日本で修行や訓練を受けることによって布教者として活動した。日本国内での宗教分布にある程度、対応する形で、定着していった。

3 第二次世界大戦時の日系人

第二次世界大戦は、日系人へ多大な影響を与えた。日本軍に味方をしているじゃないかと、多くの在米日系人が拘束されたり、逮捕されたりした。その他の者は、強制立ち退き、収容所送還を余儀なくされた。ハワイだけは状況が異なっていた。当時ハワイの人口の40%を日系人が占めていた。その日系人を全て隔離するのは、経済的に不可能だという判断がなされ、一部の「危険」と見なされた日系人が逮捕されることに留まった。

この惨劇に若い男性たちは立ち上がった。彼らは、アメリカの兵士として、第二次世界大戦に参戦した。始めは、アメリカへの忠誠心を疑われていたが、彼らは命をかけて闘い、多くの死者を出しながらも、大きな成果を上げた。中でも第442連隊戦闘部隊は、“Go for broke”（当たって砕けろ）を合言葉に、激闘を繰り広げた。



(写真 10)日系人戦闘部隊

出典 全米日系人博物館『日系アメリカ人の歴史 アメリカに渡った日系移民の歩み』
2001年

また、法律を武器に戦うものもいた。4人の二世は、退去命令などの違憲性を問い、合衆国最高裁判所に至るまで政府と戦い続けた。多くの日系人は従軍志願や、強制収容政策に従うことで忠誠を示そうとした。

4 戦後の日系人とアメリカ化

戦後、ようやく収容所が閉鎖され、日系人は自由の身となった。1951年サンフランシスコ講和条約、1952年ウォルター・マッカラン法案が可決され、日米間の行き来もまた繁くなった。社会的・経済的地位を上昇させ、アメリカの主流に入り込んでいった。彼らの生活の質はみるみる向上していった。アメリカ定住に意志を持った移民が増え、日系人社会全体がアメリカ社会へ適応しようとする動きが見られた。

日系人三、四世は、日本語を話せない人がほとんどであった。毎日使用している言語の違いは、文化に対する感覚の違いにつながった。日系人が通う学校では、キリスト教育が行われた。子供たちが、キリスト教の考えになじんでくると、それと極端に異なるような活動は敬遠するような動きが出てきた。二世までは冠婚葬祭でも、仏教式でやるが多かったが、三世、四世の時代には、ほとんどがキリスト教のやり方で行っていた。信者自体も、キリスト教徒の増加に伴い、仏教は後退していった。

その事態に直面して、初期に伝来した主要の仏教教団は危機感を募らせた。クリスマスツリーのように仏陀の木を飾ったり、讃美歌のように讃仏歌を歌ったりというアメリカ化を進めた。仏教をキリスト教派の宗教として、アメリカ人に認知させようという企みがあった。

また、この時期に、日本から新たな宗教団が進出した。その中に、禅仏教も含まれた。今までの教団は、日系人に対してのみの布教を目的としていた。しかし、戦後進出した教団の多くは、アメリカに移住した若者、また、今まではなかった現地のアメリカ人に対しても布教を行ったのである。

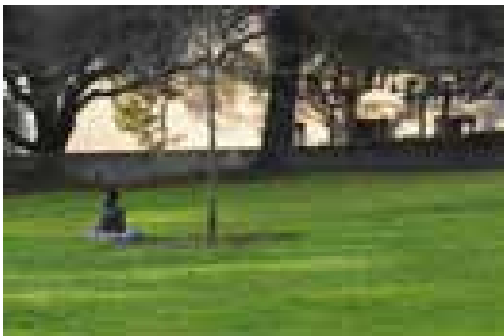


(写真 11)ヘイトアシュベリー

現在もヒッピー文化独特の色使いの建物が残る。 撮影 佐々木伽歩



(写真 12)カリフォルニア大学 バークレー校 バークレー美術館 撮影 佐々木伽歩



(写真 13)バークレーの様子 撮影 佐々木伽歩

アメリカ人が、最初に熱中した仏教が禅仏教である。禅は、ビートの詩人⁶たちをひきつけて、1950年代後半からブームとなり、1960年以降はその頃盛り上がりを見せていたカウンターカルチャー運動⁷と呼応し、アメリカの地で爆発的な人気を博した。既成の概念やその制度を捨て去り、個々人の創造性を重んずる禅は、その時代の反体制的精神と見事に合致したのである。

5 現在の日系人 アメリカ人にも受け入れられた仏教

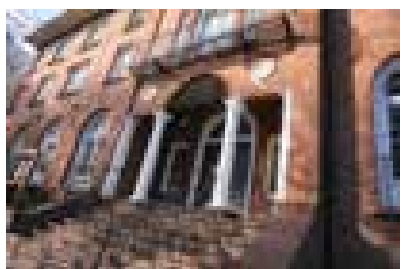
1990年の国勢調査によると、アメリカに住む日系人の人口は84万7562人である。その85%の約72万3千人が、ハワイと西海岸の地域で暮らしている。アメリカに住むアジア系集団の中で、日系人は1970年代までは最も大きな集団であったが、近年、アジア各国からの移民が増え、中国系、フィリピン系に次ぐ3番目の集団になっている。

また、アメリカは、約300万人の仏教徒がおり、アジア仏教圏以外で最も仏教徒が多い国となった。約2500万人の人口10%が仏教に影響を受けていると認めている。日本伝統仏教である浄土真宗や曹洞宗、臨済宗を始め、チベット仏教、テラワダ教(東南アジア)、中国仏教、中国・台湾・韓国・ベトナムの禅、創価学会などの新仏教も根付いている。

第3章 現在の禅センター

1 サンフランシスコ禅センター

サンフランシスコ禅センター(略称:SEZC)は、サンフランシスコのベイエリアにある曹洞宗の研修施設である。建物は三つに分かれている。瞑想寺院、長期滞在用のタサハラ禅マウンテンセンター(禅心寺)、有機農園のグリーン・ガルチ農園(蒼龍寺)で構成される。私はそこで、二日間に渡ってプログラムに参加し、滞在者の方々や通って来られる方に話を聞いた。

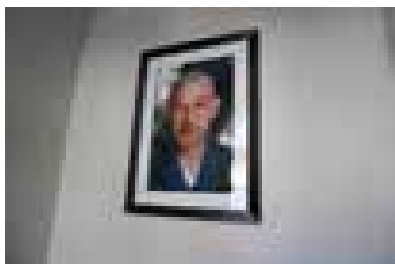


(写真14)SFZC 正面玄関

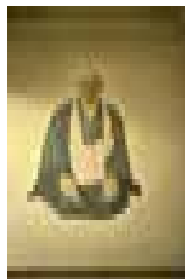
撮影 佐々木伽歩

(1)歴史

1959年5月23日、鈴木俊隆が日本より日本街にある桑港寺住職に着任した。桑港寺とは、磯部峰仙が1934年に、現在は精神療養施設である旧シナゴークに開設された曹洞宗の寺院である。鈴木氏の赴任時は、日系アメリカ人の信徒で占められていた



(写真15)鈴木俊隆 SFZCにて



撮影 佐々木伽歩

※施設内のあらゆるところに鈴木氏の写真や肖像画などが飾ってあった。

前任者とは異なり、鈴木は流暢な英語で布教した。鈴木に着任時は、前章で述べたビート・ジェネレーションと 60 年代の社会運動の最後の波が、サンフランシスコにも来ていた。やがて桑港寺にも、それらの非日系人が朝、坐禅をしに来るようになった。彼らはすぐに定期的に参禅するようになり、その数は日系人を超えるまでになった。そして、それは桑港寺の信徒内部に対立をもたらした。

そこで、1961 年に、桑港寺内ではあったものの、西洋人の参禅者を対象として別個に指導するようにしたところ、対立は緩和された。彼らのうちの数人は、そのグループをシテイ・センターと呼ぶようになり、その後、1962 年に、禅センターとして結実した。

60 年代半ばには、参禅者は急速に増加した。鈴木は彼らのために 2,3 年以内に、より坐禅に集中出来るよう、修行道場の設立を決めた。

そして 1966 年に、鈴木と高弟のゼンテツ・リチャード・ベーカーは、カリフォルニア州ビッグ・サー海岸のロス・パドレス国立公園内のタサハラ温泉にその場所を選んだ。翌 1967 年に、ベーカーらの募金活動によって、その土地を購入した。そうして設立された SFZC は、アメリカで最初の禅の修行道場となったのである。

後に多くの言語に翻訳された『禅マインド・ビギナーズマインド』の刊行直後の 1971 年 12 月 4 日、鈴木がガンにより 67 歳で遷化した。鈴木は 12 年という短いアメリカ滞在期間であったが、アメリカでの曹洞禅を確立させた。

(2)訪問の記録

現在、SFZC は 60~70 人の滞在者がおり、アメリカの禅センターの中でも最大の規模である。その多くは、アメリカ出身で、その他、ヨーロッパやアジアからなど、様々な人が滞在している。1 週間以上からの宿泊を受け付けており、彼らは **student guest** と呼ばれる。宿泊はせず、朝と夕方時間帯にのみ訪れる人々を **guest** といい、参加の仕方は、この二通りである。私は、他の研究日程のため **guest** という形で、参加させてもらった。

毎日のスケジュールは以下の通りである。

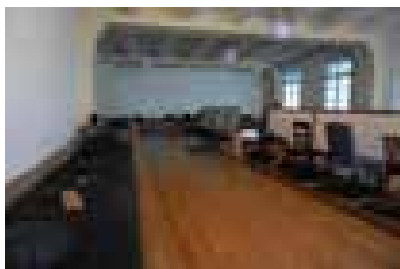
朝

- 5 : 25 座禅(sitting meditation)
- 5 : 55 経行(walking meditation)
- 6 : 05 座禅(sitting meditation)
- 6 : 40 サービス(bowing & chanting)
- 7 : 05 掃除

夕方

- 5 : 40 座禅(sitting meditation)

6 : 20 サービス(bowing & chanting)



(写真 16)ZENDO

撮影 佐々木伽歩

施設の中では上の一番大きな広さの禅堂で、座禅が行われた。部屋は、薄暗く、ろうそくの光だけであった。施設の中は土足だったが、禅堂に入るときは、靴を脱ぐ。日本の禅堂と同様、まず一礼して入堂し、座る際にも、前に向かって一礼、振り返り一礼をする。参加する人々の服装は、普段着の人が多かった。中には、ジャージの人もいた。スカートや露出の激しい服装は、禁止とされているが、あとは自分がリラックスできる服装であれば何でもよいそうだ。参加者の年齢は、幅広く、20代から、中にはかなり高齢の方もいた。徐々に人々が集まり、それぞれが一連の動作をして、坐蒲に座り、座禅に入った。始めの内は、一定のリズムで太鼓と木魚、鈴(りん)の音が室内に響き渡り、その音に合わせて呼吸を行った。



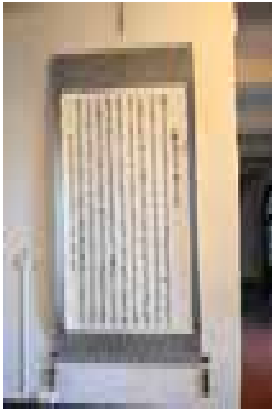
(写真 17)木魚、鈴など

撮影 佐々木伽歩

しばらくして音は止み、室内は静寂に包まれた。少しでも動けば、服のすれる音が響き、隣の人の唾をのむ音が聞こえるほどの静かさだった。40分経過すると、再び鈴の音が何回か鳴り、坐禅が終了した。

そして、初心者の人には経典が配られた。禅センターの案内には、この時間は「service(bowing & chanting)」という表記がされている。

アメリカでは三種類のお経の在り方があった。一つ目は、英語に訳されているものである。独特なお経のリズムをそのまま英語で読む。二つ目は、ローマ字でそのまま音を表現しているものである。「摩訶般若波羅蜜多心經(まかはんにゃはらみったしんぎょう)」というように日本では、漢字にふりがなを振って書いてあるものが、「makahannya-haramitashinkyō」と横書きにローマ字が並んでいた。三つ目は、日本語をそのままローマ字にして書いてあるものである。「自ら仏に帰依したてまつる」を「mizukara hotokeni kieshitatematsuru」というような感じである。



(写真 18) 経典の一部 SFZC にて

撮影 佐々木伽歩

夕方の座禅とサービスが終わると、夕食の時間である。その日の夕食は、タコスのような生地に自分で好きな具を挟むものだった。食堂で各々が好きな場所に座る。大体各テーブルが 5、6 人であった。始めは誰も一言もしゃべらず、黙々と食べていたが、鐘の音を合図に食事の言葉を言う。それからは、席の人と自由にしゃべる時間だった。自分の出身地(私が座ったテーブルは、ニューヨーク、サンフランシスコ、中国、ポーランドなどの人がいた)や、好きな俳優の話、食べ物の話など、禅とは関係のないたわいもない話で盛り上がっていた。

(3) インタビュー

施設の人から伺った話では、SFZC に訪れる多くの人々が、禅は日本から伝わってきたもので、曹洞宗であると認知している。しかし、重要なことは、坐禅をくむということである。宗教の一つである曹洞宗の禅をしているという認識というよりかは、座禅をするために訪れている人々がほとんどだという。

SFZC に滞在中の 3 人の方にお話を伺った。

一人目は、ポーランド人の男性である。彼が禅センターに訪れたきっかけは、一冊の本であった。その本の作者である鈴木大拙は仏教に与えた影響は絶大で、彼の書いた『ビギナーズ・マインド』は名作であるが、日本ではあまりその名は知られていない。しかし、ヨーロッパでは彼の名前は有名だそうだ。彼は、禅に関して強い関心があり、今回訪問に至ったという。

二人目は、中国出身で、日本国籍を持つ女性である。彼女は、自身の仕事がかっけで「マインドフルネス」というものに興味をもったそうである。日本語で「気付くこと」「意識すること」といったように訳され、自分で自分の意識をコントロールする力のことを指す。例えば、映画を見ているときに、何か心配事があったり、やらなければならないことがあったりすると、自然と意識がそちらにいつて、映画に集中できないという経験はないだろうか。スポーツ選手などは、よりよいパフォーマンスをするために、練習する。それと同じように、人の意識や集中力もまた、練習が必要なのである。「マインドフルネス」の鍛錬のために知人に紹介してもらった SFZC に訪れたという。

三人目は、日本から来た男性である。彼は数年前に禅とは全く違う理由で渡米し、禅と出会い、現在 SFZC で生活している。彼に日本とアメリカの禅の違いについて尋ねた。

「日本の禅のシーンは、大乘仏教の檀家制度によって、宗教的で、形式的なものが多い。しかし、それは禅とは違うものである。もともと曹洞宗は、檀家をとるような宗教ではなかった。上からの圧力や、寺院を運営していくために時代と共に変化していった。曹洞宗は、大乘的な部分と小乗的な部分に分かれ、そこにジレンマがある。そういう状況が日本にはある。一方カリフォルニアは自由な風土を持っている。日本のようなバックグラウンドを持っていない分、ZEN の大切な部分に目がいきやすい。そこが最も日本とアメリカと禅の違いである。伝統ではない分、自由であり、禅は統合的なもの。西海岸に住む人々と日本の人々は話す言葉も違えば、考え方も違う。全く違う頭を持っている。西海岸の人々は分析をする。理論的に考えるのが得意な傾向にある。しかし、禅は頭で考えて答えが出るというものではない。形がないものをつかもうとしている。自由だからと言って全部が見えるというわけではない。逆にその分、西海岸の人々は苦勞する。だから、こちらの人々は、概念を全て捨て去って、現代の価値観を一回なくしてからではないと、禅にかえることはできない。」

彼は、数年前に禅とは違う目的で渡米し、禅と出会った。日本に帰ってから曹洞宗に入ろうとも考えていないそうである。アメリカの地で ZEN と出会ったからこそ、ZEN を始め、ZEN の本質に気付いたという。

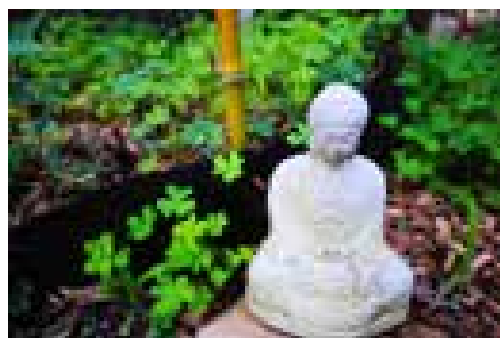
2 バークレー禅センター



(写真 19)バークレー禅センター

撮影 佐々木伽歩

サンフランシスコ禅センターと比べるとかなり小さい規模の敷地である。



(写真 20) バークレー禅センター内

撮影 佐々木伽歩

ZENDOにて、座禅が行われた。サンフランシスコ禅センターと同様室内は薄暗く、各自坐蒲を持ってきて、座る。鐘や鈴が鳴り、坐禅の時間が始まった。その日、約15人の人々が坐禅会に参加していた。40分の坐禅を終えると、経典を読むサービスの時間になった。しかしながら、サービスに入る前にほとんどの人が帰ってしまった。

それからの経典を読む時間は、僧侶の方二人、私を含む一般の参加者は、たったの4人であった。部屋では、木魚と鐘の音が響き、お勤めが進行していった。

バークレー禅センターでは、一人の女性に話を聞くことができた。その女性は、近所に住んでいて、10数年前から、バークレー禅センターに通っているという。毎日の座禅の時間は、心を落ち着けるかけがえのない時間だと話してくれた。

おわりに

「禅とは何か」という問いに対して、定まった答えはないことが今回の調査でわかった。禅は、達成するものでも、ゴールもない。しかし、あえて言うならば、自己の本質を見出す手段と言えるだろう。「私は日本人である」「男性・女性である」という既存の分類に当てはめた認識ではなく、「自分自身とは何なのか」ということを根っこから考えたことはあるだろうか。私たちは常に周りと比較し、評価される。そして、たくさんの価値観、概念の中で生きている。この慌ただしい生活を送る私たちにとって、自分自身の本質を見直す機会や時間、手段として、禅の存在は貴重だと考える。

このような性質を持つ禅は、日本から太平洋を渡り、アメリカの地で受け入れられた。しかし、日本とは異なった形で、今日、ZEN は存在することになった。それは、アメリカの人々の言語や考え方、風土の違いによって、時代とともに変化していったと考えられる。SFZCにてインタビューさせて頂いた男性が言っていたように、アメリカ人は理論的な考えをする傾向がある。しかし、禅は理論的に説明できるものではない。彼らにとって禅は異質でもあったが、一方でアメリカの人々が求めているものでもあったのである。彼らの一部はキリスト教などの宗教に疑問を持つ者や、多様化した価値観の中自分自身の存在について問うものが少なからずいた。彼らは自分なりの答えを見出す手段としてZENを必要としたのである。バークレー禅センターにて、多くの人が、坐禅が終わるとすぐ帰って行ってしまったことは、手段としてZENが受け入れられていることが、顕著にわかる。インタビューで、女性がSFZCを訪れるきっかけになったと言っていた「マインドフルネス」として、ZENはさらに注目されている。Googleなどに代表されるシリコンバレーでは多くの企業で、禅のエレメントを取り入れたプログラムが実施されている。アップル創業者であるスティーブ・ジョブズも禅を好んでいたことは、最初にも触れた。日本でも座禅会やホームページなどの情報発信により、認知度が上がっていることは間違いないが、その距離感は遠い。しかしその隔たりが間違っているのではない。その土地や考え、その人自身に合った禅を模索していくべきである。

今回の調査で、SFZCでアンケートを取る予定だった。事前にメールで許可をとり、当日持参したが、メールでセンターの人が滞在者に転送してくれるということに変更になった。その後3回アンケートの内容を記載したメールを送ったが、センターの人と連絡が取れなくなってしまったことにより、アンケートを実施することができなかった。

参考文献

- ・大谷哲夫『よくわかる仏事の本 曹洞宗』世界文化社 2005年
- ・井上順孝『海を渡った日本宗教 移民社会の内と外』弘文堂 1985年
- ・『日系アメリカ人の歴史—アメリカに渡った日系移民の歩み』全米日系人博物館 2001年
- ・鈴木大拙『禅とは何か』

参考 URL

- ・肥田美佐子『スティーブ・ジョブズと禅』 2011年
<http://president.jp/articles/-/9094?page=2>
- ・石井清純「北アメリカのZEN『禅と林檎 スティーブ・ジョブズという生き方』刊行に因んで」第9回ホームカミングデー講演資料 2012年
http://setagaya-ecollege.com/lec_contents/186/373/1.pdf

註

-
- ¹ 大谷哲夫『よくわかる仏事の本 曹洞宗』世界文化社 2005年 28頁
 - ² 安国寺について 安国寺前の看板
 - ³ 大谷哲夫 前述書 世界文化社 2005年 115頁
 - ⁴ 西海岸において、完全に移民は停止された。約 50 年間で多くの日本人が渡米し、日系アメリカ人一世となった。現在、アメリカで暮らす日系アメリカ人は彼らの子孫で日系アメリカ人三世四世にあたるのである。
 - ⁵ それより前に、浄土真宗の僧侶曜日蒼竜を始めとして、単身布教は行われていた
 - ⁶ 1955年から1964年にかけてアメリカの文学界で異彩を放ったグループ、あるいはその総称。ニューヨークのアンダーグラウンド社会で生きる非遵法者の若者たちという意。映画『ビートニク』特にヒッピー(伝統・制度などの既成の価値観に縛られた人間生活を否定することを信条とし、また文明以前の自然で野生生活への回帰を提唱する人々の総称。1960年後半からアメリカの若者たちの間で広がったムーブメント。自然と愛と平和とセックスと自由を愛していると主張した)から熱狂的な支持を受ける。
 - ⁷ 既存の、あるいは主流の体制的な文化に対抗する文化という意。1960年後半～70年代前半にかけてよく使われた。狭義にはヒッピー文化や1969年のウッドストックに代表されるような当時のロック音楽を指すものである。